

千葉北部地区いには野ユニバーサルデザイン街づくり計画策定業務

株式会社 都市開発技術サービス(都市基盤整備公団 千葉地域支社 千葉ニュータウン事業本部)

業務概要

いには野は、北総・公団線「印旛日本医大駅」の東側、約104haの範囲に開発された千葉ニュータウンの最東部に位置する地区であり、計画の段階から街全体の面的なバリアフリー化を目指した基盤整備が行われてきた地区である。

本業務では、こうした整備の成果を、東京都立大学大学院 秋山哲男教授の監修の下、再度バリアフリーの視点から検証し、改善の必要な部分の評価と提案を行うとともに、バリアフリーをベースにした住み良いまちづくりをフォローアップし、さらにユニバーサルデザインのまちづくりへステップアップするための基礎調査を行った。

検討内容

①道路等のバリアフリー現況調査による改善課題抽出

地区内の幹線道路・交差点、駅前広場及び区画道路に関してバリアフリー現況調査を行い、改善が必要と考えられる課題を抽出した。

②住宅・施設建築物のバリアフリー現況調査による改善課題抽出

地区内の戸建て住宅及び駅舎、商業施設、病院、集会所等の公共公益施設に関してバリアフリー現況調査を行い、課題抽出を行った。

③「ユニバーサルデザインまちづくり方針」の提案

ユニバーサルデザインまちづくりに係るハード、ソフト両面の配慮事項を整理し、次のような項目について、ユニバーサルデザインまちづくり計画の方針として提案を行った。

<ハード面>

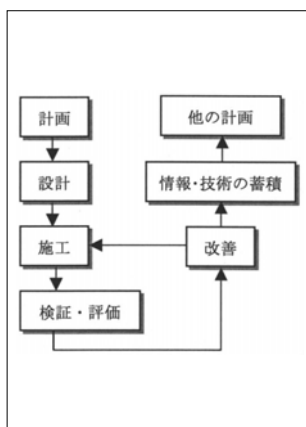
- 1) 全ての人のモビリティ確保
- 2) 安全でバリアフリー整備された歩行空間
- 3) 歩行者に快適な利用施設・設備
- 4) 道路のネットワーク整備
- 5) 住宅・施設建築物のバリアフリー整備

<ソフト面>

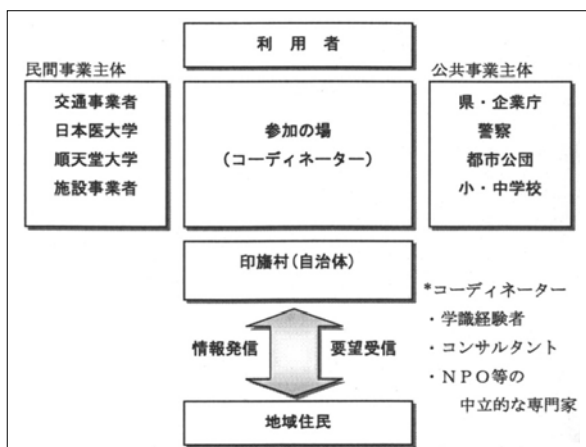
- 1) 運用(オペレーション)
- 2) 生活支援サービス
- 3) ユニバーサルデザインまちづくりのプロセス(改善を継続させる循環のプロセス)
- 4) ユニバーサルデザインまちづくりの仕組み(生活者の視点を反映させる参画の仕組み)

④「ユニバーサルデザインまちづくり計画」の提案

①、②において抽出した課題に対する改善提案を行うとともに、ユニバーサルデザイン住宅ガイドライン(案)の策定、継続的にバリアフリーレベルを向上させるプロセスの確保と仕組みづくりの提案、自転車レーンやバス交通のネットワーク化の検討などを行った。



「改善を継続させる循環のプロセス」の提案



↑「生活者の視点を反映させる参画の仕組み」の提案



道路等における課題抽出とその改善提案の一例 →